

太田川水防災タイムライン(平成31年度版)が完成しました。

平成31年3月19日広島市役所で広島市、安芸太田町、太田川河川事務所、広島气象台、温井ダム管理所、広島国道事務所および広島県の行政機関、公共交通機関、ライフライン機関及び報道機関などで構成される太田川水防災タイムライン(平成31年度版)の完成式を開催しました。

全国初のマルチハザードタイムライン

太田川水防災タイムラインは、全国で初めて「マルチハザード対応」として作成しました。洪水、内水、高潮、土砂災害のハザード別のステージ毎に関係機関がとるべき項目がわかるようタイムラインを作成したことで、どの災害がどの順序で発生しても対応可能です。

【太田川水防災タイムラインの特徴】

- 上中流には渓谷沿いに集落が点在、下流域には百万都市の広島市を貫流する大河川があり、**洪水、内水、土砂災害、高潮**に脆弱な地域
- 全国初**の「洪水、内水、土砂災害、高潮」の**マルチハザード**を対象

洪水 平成17年9月 洪水時



土砂災害 平成26年8月土砂災害



内水 平成22年7月 内水浸水被害状況



高潮 平成16年9月 高潮浸水被害



【太田川水防災タイムラインの策定経緯】

平成29年11月6日 **発足式**
「太田川水防災タイムライン検討会」 35機関参加
座長 松尾一郎 環境総合政策研究機構
環境・防災総合研究所 副所長

平成29年12月～平成31年2月
・勉強会、現地視察、図上訓練、H30.7豪雨ふりかえり
・タイムライン策定に向けての意見交換・課題抽出

H31年3月19日(完成式)
太田川水防災タイムライン【初版】完成式
座長から広島市長、安芸太田町長へ手交

H31出水期～
実際の台風にあわせてタイムラインを運用
振り返りにより、実施状況を検証、更新

太田川水防災タイムラインでの主な提案

- マルチハザードでは多角的な視点からトリガーとなるためダム管理者も構成員とする。
- 内水氾濫については排水機場の稼働状況も伝達する。